

感染症の予防のための情報提供について

病 名	腸管出血性大腸菌感染症（O157）				
年齢及び性別	40代・男性	職 業	会社員		
住 所	亀山市				
発 病 年 月 日	令和7年7月13日				
診 断 年 月 日	令和7年7月16日				
（患者発生の経過） 7月13日 腹痛、血便の症状がみられた。 7月14日 症状継続のため、亀山市内の医療機関Aを受診し、鈴鹿市内の医療機関Bに紹介入院となった。 7月16日 7月14日の便検査から腸管出血性大腸菌感染症と診断された。 現在、患者は入院中ですが快方に向かっています。					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施（鈴鹿保健所）					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】（四日市市保健所分を含む）					
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
患者	25	29	34	32	10
保菌者	12	23	23	12	2
計(感染者)	37	52	57	44	12
※2025年1月1日～2025年7月17日現在まで本件含む					
2025年内 患 者：O157（7人）O103（1人）O26（1人）型不明（1人）					
保菌者：O26（1人）型不明（1人）					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱（菌を殺す）					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却（菌を増やさない）					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫（10℃以下）や冷凍庫（-15℃以下）に入れましょう。					
③ 清潔（菌をつけない）					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					